

台本3

※収録の際、セリフのみを収録してください。キャラクターの名前情報などの必要はありません。

※本番で使用するセリフはサブキャラクター、擬音セリフになります。メインキャラクターは審査の参考として収録をお願いしています。

※一部のセリフのみの応募も可能です。

できるだけ多くのセリフを収録いただけると幸いです。一部のみの場合は台本からお好きなセリフをお選びいただき、メインキャラクター2つ以上、サブキャラクター4つ以上、擬音1つ以上を収録の上ご応募ください。

【登場キャラクター】

タクミ…三毛猫のオス。本人曰く「どこにでもいる普通のニート」あらゆることに対してモチベーションが低い。

社長…謎のスーパーブラック企業《猫企画》の女性社長。年齢不詳。恐るべき野望を持っているが、その詳細を知る者はいない。

社員・面接官…猫企画の社員たち。社長の言うことは絶対。

筋肉猫…猫企画で働くパートタイマー。

アナウンサー…ニャゴヤシティで働くオスのアナウンサー。

奴隷猫…猫企画の労働者たち。疲労困ぱいで顔はげっそりしている。

ガラケー…父のガラパゴス携帯。

スマホ…ユガミのスマートフォン。

照合装置…秘密研究所にある肉球照合装置。

【メインキャラクターパート】※太文字が収録セリフになります

タクミ、父に殴られる

タクミ「ニヤぐったニヤ〜？ 妹にもぶたれたことあれせんのに！！」

猫企画社内にて、社員が社長に対しプレゼン中。

社長「そうか。パイロットは？」

社員B「そちらもすでに内定(なやあてえー)【お】しております」

社長「お前は優秀な社員だな。幹部候補見習い推薦リストのいちばん下に入れておいてやるっ」

社員B「ありがたき幸せ」

働く奴隷たちに向かってスピーカー越しで喝を入れる社長。

社長「さあ働きなさい！！—お前たちは働くこと以外に何もできない猫なのです。他には何の才能もありません。働くことがあなたたちの宿命、使命、天命なのです。働けなくなったらお前たちはただの産業廃棄物でしかありません。自分たちがまだゴミではないことを全身全霊で証明してみせなさい！」

【サブキャラクターパート】

父、面接を受ける場面。

面接官A「志望動機を教えてくださいいただけますか？」

志望動機を聞かれて「脂肪」と聞き間違える父。

面接官B「そのシボウではありません。ニヤゼこの会社に入りたいと思ったのですかと聞いているのです。」

志望動機の質問が中断されたため、再度父に聞き返す

面接官C「で、動機は？」

父「ドウキ？ ああ、動悸かやあも[kæ̃no]。ニヤあはニヤも[hæ-wanamo]全然」

面接官D「は？ ニヤい、とは？」

畳の上に置かれた父のガラケーからメールの着信ボイスが流れる。

ガラケー「メールだがね♪ メールだがね♪ メール——」

ニュース原稿を読むアナウンサー

アナウンサー「今、ニヤゴヤ・シテイでは——猫が次々に行方不明にニヤるといふ不可解ニヤ事件が起きています。今月に入ってからすでに101匹の猫がニヤンの前触れもニヤく——」

猫企画に侵入したタクミ。筋肉猫Bがサーチライトを当てる

筋肉猫B「ほれ、あそこだがや！ やっぱりニヤンかおるぞ！」

筋肉猫C「んん？ 見えんが。またどうせアラヤア「⊗」グマだわ」

筋肉猫B「アライグマは絶滅したはずだで」

筋肉猫C「ほんなら、フェネックかニヤ？」

数時間後、再びサーチライトの光がタクミに当たる。

筋肉猫B「やっぱりニヤンかおるぞ！」

タクミ、残像だけ残してサッと姿を消す。

筋肉猫C「え？ フェネックどこだ？」

